



青少年の非行の芽をつみ、心豊かでたくましい青少年を育てるためには、何よりも健全な家庭環境が大切です。

非行防止と青少年健全育成町民大会で「いま、中学生が訴えたいこと」をテーマにした中学生の意見発表もありました。発表された中学生の意見を紹介します。

●問い合わせ 文化センター ☎83-9567

いま、 中学生が 訴えたいこと



ガラスの心

北部中学校 3年 新海 和奏

「助けてほしい」
この言葉をすぐ□にするこ
とができる人はどれだけい
るのだろう。私はつらい時、
助けを求めたいとき、素直
に「助けてほしい」と言えて
いたのだろうか。

「女子高生一人、飛び降り配
信」という記事だ。はじめ
はなんでそんなことを配信
するのだろうと理解できな
かった。でもその記事に書
いてあったのは「自殺した
あとに何かを知ってほし
かったのかも知れない」と
いう親しい友達が発した言
葉だった。私はその言葉に
少し心の中で納得した。で
も世間は、その子達が誰か
に相談していればよかった
のに、誰かに助けを求めな
かったのかと言う。まるで
その子達が悪い、自業自得
だというようなことを言う
人もいた。

大人はいつも「助けてほ
しい時は声をあげてほし
い」「助けて」を言葉にして
ほしい「そんな言葉を吐く
が、私たちにとってはそん
な容易な行為ではない。私
自身もつらい、死にたい、
そう思った時があった。で
もそんな時「助けて」の一
言を伝えることができなかった。
それはなぜか、見放され
るのが怖い、否定される
のが怖い、味方になっても
らえるかわからない。色々

な理由から「助けて」という
言葉を喉から発することが
できなかった。自分の中で
ため続けるしかなかった。
そしてそれがいつか色々な
形で爆発してしまう。その
爆発が最悪のケースに至る
こともあると思った。あの
時私の近くに心を許せる人
がいたら。素直な気持ちが
吐き出せる人がいたら。声
を上げて気持ちを受け止
めてくれる環境があったら。
1人でため込まなくてもよ
かったのかも知れない。

だから、私たちは、その
最悪のケースに至らないた
めにこれから誰でも「助け
て」を□にできるようにし
ていかなければならない。
と言っても聞き出してしゃ
べらせるのは違う。作って
いかなければならないのは、
その子が自然と言葉を吐き
出せる環境だ。今はSNS
で気軽に相談できる環境が
ある。でもそれは、電子機
器を持っている人に限られ
てしまう。つらい時は歳、
性別、年齢なんて関係ない。
誰がどこにいても伝えられ
る環境が必要だ。もちろん

そう簡単に作れる環境では
ない。でもそれぞれが、色々
な努力はできるはずだ。例
えば、精神科医の方のお話
を聞く会を開くことで、人
の心について学ぶことも、
私たちがその子に対してど
のような言動をするのが最
善かを相談することもでき
るだろう。そんな機会を作
ることで、環境を変えるこ
とへとつながる。環境を変
えれば、周りの意識を変え
ることができ、これからの
私たちの明るい未来、思い
描いた未来をつくることが
できると私は信じている。

これから、ほんの少しで
も、子どもたちの気持ち、
言葉に耳を傾け寄り添って
ほしい。そこから自分たち
なりの言葉を吐き出せる環
境を作っていくしてほしい。
私は、私が思い描く環境を
作るために将来、子ども
の心に寄り添い、伝えたい
と思ってくれるような仕事に
携わりながら、躊躇わずに
「助けて」を伝えてもらえる
環境を作りたい。そこで私
自身の経験や感じたことを
生かしたい。



自己肯定感の在り方

東浦中学校 2年 青木 千春

非行とは、法律や社会のルールに反する行為をすることだ。家庭環境や学校生活、友達関係など、様々な要因が重なっているのではないかと私は思う。

まず、家庭環境について考えたい。家庭でのコミュニケーションはとても大切

だ。私は晩御飯のときなどに今日あった出来事や友達との話などをしてしている。家族に聞いてもらうことで安心感を得て、温かい気持ちになることができる時間だと思う。家族とコミュニケーションをとり、気軽に相談できる環境があることが、私の生活の基盤となっている。

ある日の朝会で、校長先生が「自己肯定感があるか」というお話をされた。自己肯定感とは、自分自身を受け入れ、自分を認めることができる強い心のことだ。私の答えはノーだった。なぜなら、コンプレックスがあるからだ。誰にでもそれはあると思うが、では、コンプレックスを認めれば自己肯定感が高いといえるのだろうか。令和元年に内閣府が公表した「子ども若者白書」によると、先進諸国の中でも、日本人の自己肯定感是非常に低い。私に限らず、自分のことを受け入れ、認めている若者はどれだけいるのだろうかと考えてしまつ。このような私た

ちの意識をどのように変えていくとよいのだろうか。

共働きや核家族の増加とともに、「コミュニティ」などの社会的なつながりが希薄化していると新聞やテレビのニュースで取り上げられている。犯罪率が極めて低い日本であるのに、生活満足度が低く、自殺率が高いという調査結果もあるようだ。自分を認め、自信をもつことができれば、いじめや自殺、非行などといった問題が減少するのではないかと思った。自分自身のこととを好きになることができれば、生活満足度も高くなるのではないだろうか。やはり、家族を基盤とした社会的なつながりの薄さにも課題があるように感じる。

多様化する家庭環境を支えるために、地域社会の力は重要だ。私たちが悩みを抱えていたとしても、家族以外の友達や周りの大人に相談することで受け入れてもらえることは心の支えとなる。私の住む地域には、幼い頃に楽しみにしていたコミュニティのお祭りや、子

ども食堂などの活動がある。私たちを支え、関わってくださる方たちが多くいる恵まれた場所だ。こうした支えがあつてこそ、私たちは学校生活を楽しむことができる。ただ受け身で待つのではなく、自分たちから積極的に地域と関わることが重要なのではないか。

自己肯定感を高めるためには、自分のネガティブなところを認めていけるようにならないといけない。しかし、物事をポジティブに捉えることは、とても難しく苦しいことだ。例えば、生徒会などで任せられる活動で失敗してしまったときや、友達との衝突があつたとき「自分は駄目だな」と思ってしまう。ネガティブに捉えることをやめようとしても「しんどい1日だった」というマイナスな感情が浮かび上がってきてしまう。しかし、ネガティブな自分が悪い訳ではなく、ネガティブな自分も、ポジティブな自分も、全て自分の一部であり、どちらも自分だと考えるべきだ。大切なのは、ネ

ガティブな自分にどう向き合い、対処していくかだ。面倒だと思うことや、自分は駄目だと否定的になつてしまつてネガティブ感情を無理に消す必要はない。そういうこともあると否定せず受け止めることが大切である。そして、そんな自分を支えてくれる環境があつてこそ、私たちは自己実現を叶えていくことができる。私たち中学生が希望をもち、人との関わり方や進路などのさまざまな問題にぶつかりながらも、社会のルールを守って生活していくためには、自己肯定感のもち方に鍵があると思う。友達や家族、先生、地域の方々などの周りの人に支えられていることを胸に、自分に自信をもつて生活できるように私はしたい。そして、将来のことを考え、夢をもち、自己実現を果たす努力を日々続けていきたい。





漫画の価値を知ってほしい

西部中学校 2年 木野 友花

私はアニメや漫画が大好きです。

アニメや漫画の世界には、勇気をもって誰にでも優しくできる私の理想のキャラクターがたくさんいます。そして私は、彼らの作る世界観や、言動に毎日元気づけられています。そういう

アニメや漫画の世界に憧れるファンは、今では世界中にたくさんいて、外国語に翻訳されたり、実写化されたりして日本の重要な文化として認められています。もはや漫画もアニメも日本の誇りと言えるのではないかと思います。

けれど、学校には漫画がほとんどありません。伝記や歴史の漫画が少しは置いてありますが「ONCE」や「ブルーロック」などの漫画は置いてありません。とても残念です。漫画は、小説などの文字だけの本より劣ると考えられているのでしょうか。私は、漫画の価値を見直し、子どもたちが1日の大半を過ごす学校でも、漫画を手にとることができるようになるべきであると考え、その理由を4つ挙げたいと思います。

1つ目の理由は、文字だけの小説より漫画の方が、分かりやすいと感じている人が多いということです。私は小説を読むのも好きで、学校でよく本を借りるので、図書館で借りた本を読んでいると友だちに驚かれます。「面白いから読んでみなよ」と言っても「文字ばかりで面倒くさい」とか「長すぎて無理」という返事がきます。でも、漫画なら長い話でも読む人が多くいます。去年の担任の先生が「漫画でもいいから、動画を見るのではなく文字を読んでほしい。漫画でも読む力は付くから」とおっしゃっていました。私はこの言葉に強く共感しました。漫画を読んで、そこに出てくることに興味をもっていろいろ調べてみようと思っただけのこともありました。文字だけの小説よりも、絵のある漫画は手に取りやすいのではないのでしょうか。何かを読むことに楽しさを感じ、読む力が付くのなら漫画のある図書室に、みんなが来る動機になると考えます。

2つ目は、漫画の中のキャラクターや物語から学べるものがたくさんあることです。「ONE PIECE」に出てくる登場人物たちは、仲間と共に冒険に出かけ様々な困難に知恵と友情で立ち向かいます。漫画は、私に諦めないこと、夢に向かって進み続けることの大切さを教えてくれます。敵キャラクターの言動からは、物の見方や立場の違いで「正義」も違ってくるのではないかと考えさせられることもありました。漫画は少し大げさに描かれているからこそ、より深く考えるきっかけになるのだと思います。

3つ目は、日本文化として世界に誇れるものであると感じることです。テレビなどで、日本の漫画で日本語を学んだり、日本漫画の聖地巡りのために日本を訪れたりする外国人が多くいると紹介されていました。漫画をきっかけに、日本についていろいろ知ろうとする外国人の存在は、漫画が日本の文化として世界に定着していることを表しているのではないのでしょうか。漫画を共通の話題として、外国の人たちとコミュニケーションをとることができたら楽しいだろうなあと思います。

4つ目は、学校にあれば個人で買わなくても、読むことができるということです。漫画には長い作品があり、所有するためにはお金がかかります。中学生の私には、読みたい漫画を全部自分で買うのは無理です。学校にあつたらいいのにと、本屋さんで考えることがよくあるのです。

以上の理由から、私は学校にも漫画を置いてほしいと考えます。もちろんどんな漫画を置くかについては、しっかりと検討していく必要があると思います。先生方や生徒会、図書委員やクラスで話し合っていくことが重要ですが、それも楽しいのではないのでしょうか。漫画を入り口に読書の楽しさが分かる人が、必ず出てくると思います。「反対意見もあるでしょうが、試してみるのは価値はきつとあると私は考えています。みなさん、ぜひ検討をお願いします。」